

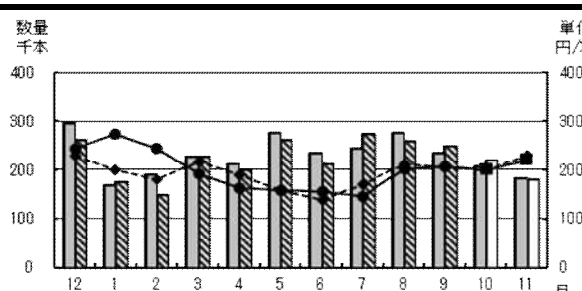
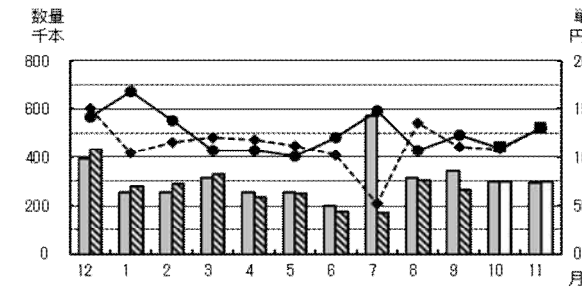
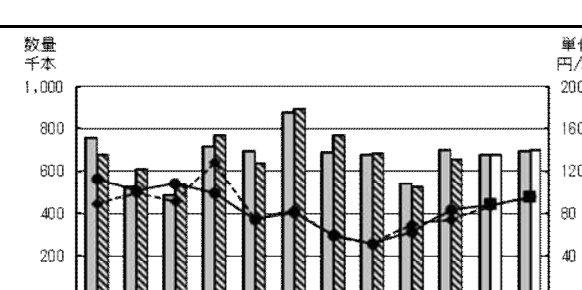
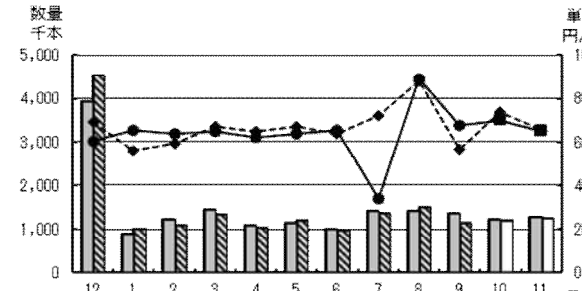
切花・鉢花の11月の見通し

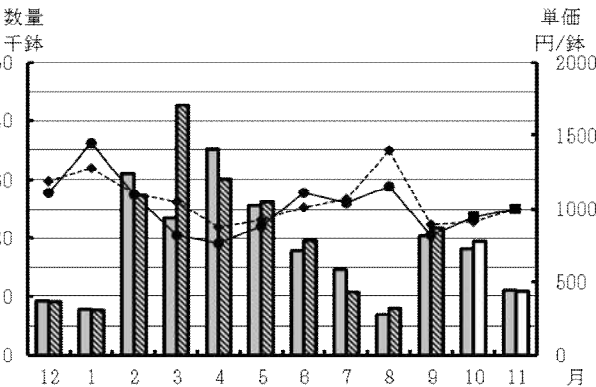
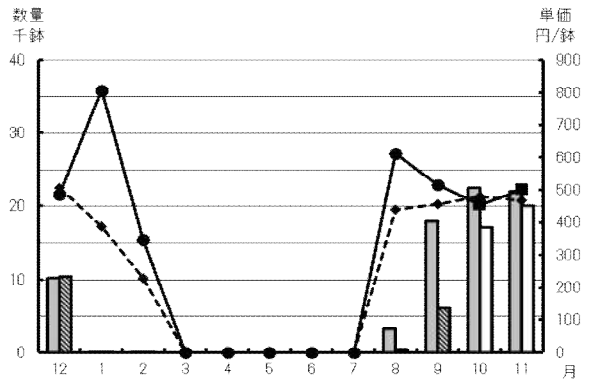
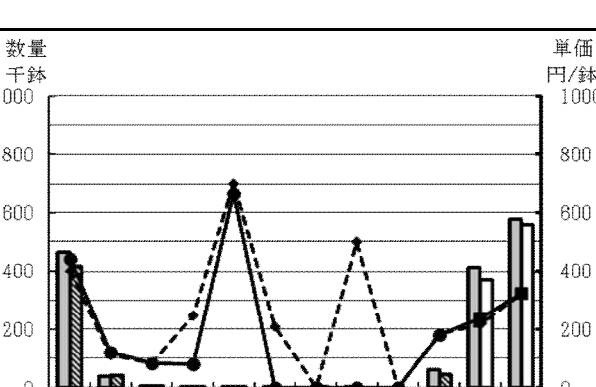
切花（愛知名港花き地方卸売市場 11月6日現在）

単位：千本、円／本

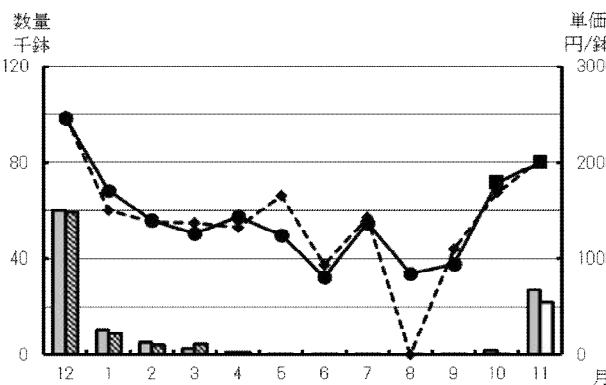
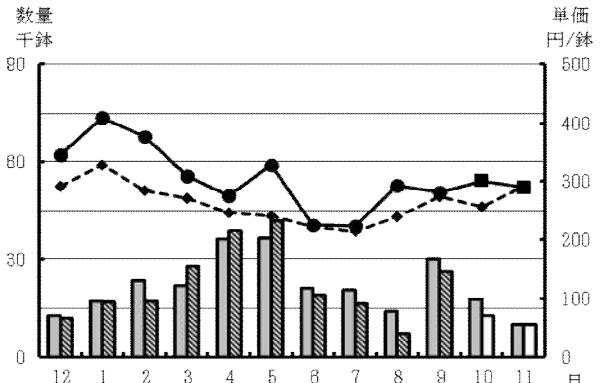
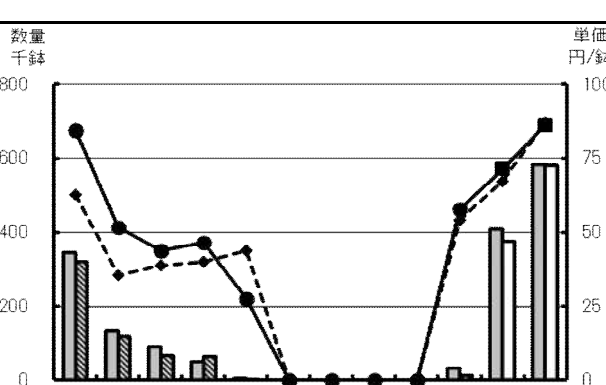
品目	区分	実績等	入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
輪 ぎ く	実績	2020年	1, 1 9 1	5 2	
		2021年	1, 4 4 1	5 4	
		2022年	1, 3 3 2	4 2	
		2023年	9 6 7	4 0	
		2024年	1, 0 2 2	1 3 2	
		5カ年平均	1, 1 9 1	6 2	
	2025年見通し	1, 1 0 0	4 5		
	概要	愛知産中心の入荷。中旬頃からは秋系の品種も出荷が始まってくるが入荷量は少ないまま推移する見込み。価格も上位等級中心に高値の取引が見込まれる。			
小 ぎ く	実績	2020年	7 6 4	2 8	
		2021年	7 3 7	3 3	
		2022年	6 5 8	2 7	
		2023年	5 6 2	2 4	
		2024年	3 8 3	4 3	
		5カ年平均	6 2 1	3 0	
	2025年見通し	4 0 0	4 0		
	概要	愛知、沖縄からの入荷。中旬頃からは入荷量も安定してくる見込みだが、月を通して数量は少なくなると思われる。価格は安定する見込み。			
カー ネー シ ョ ン	実績	2020年	1, 1 4 7	3 1	
		2021年	1, 0 4 1	4 1	
		2022年	1, 0 0 0	4 2	
		2023年	9 3 8	4 0	
		2024年	1, 0 1 0	4 7	
		5カ年平均	1, 0 2 7	4 0	
	2025年見通し	1, 0 0 0	4 5		
	概要	長野産、愛知産、輸入の入荷。長野産はシーズンオフに向かい、色目が限定してくる。愛知産は例年に比べ、出荷は早かったものの、秋の冷え込みの影響もあってガラガラと出荷。暑さの影響が残る品種もちらほら見受けられる。輸入物は例年並みとなる予想。			
か す み そ う	実績	2020年	1 3 9	8 7	
		2021年	1 5 5	9 2	
		2022年	1 5 0	9 5	
		2023年	1 1 2	1 1 1	
		2024年	1 1 4	1 4 3	
		5カ年平均	1 3 4	1 0 3	
	2025年見通し	1 2 0	1 3 5		
	概要	和歌山産、高知産、熊本産を中心に入荷。福島産は前半で終了。10月中旬からの天候の影響によりやや少なめの入荷で、下旬から増えてくる。業務需要が活発な月であり、数量次第で単価は高くなる。			

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	2020年	2 4 4	1 7 9	
		2021年	2 2 1	2 0 3	
		2022年	1 9 6	2 1 8	
		2023年	1 8 7	2 0 6	
		2024年	1 8 2	2 3 0	
	5ヵ年平均		2 0 6	2 0 6	
	2025年見通し		1 8 0	2 2 0	
概要	オリエンタルユリは高知産、宮崎産、埼玉産が中心。新潟産、北海道産は月末に向かって数量は減少。LA、鉄砲ユリも出荷は例年より少なく、下旬まで少ない予想。単価は中旬まで高値基調で動く見込み。				
洋らん	実績	2020年	3 5 0	9 7	
		2021年	3 2 2	1 1 9	
		2022年	2 7 8	1 1 8	
		2023年	2 8 8	1 2 4	
		2024年	2 9 4	1 3 1	
	5ヵ年平均		3 0 6	1 1 7	
	2025年見通し		3 0 0	1 3 0	
概要	オンシジウムは上位等級が減少し、下位等級が増える見込み。デンファレはアンナが増加。シンピジウムは国産が始まり、輸入は終了となる見込み。カトレアは気温の低下とともに出荷減。コチョウランは鹿児島産が11月いっぱい出荷減の見込み。輸入品はコスト上昇により昨年よりも要求単価がアップしている。				
ばら	実績	2020年	7 0 1	7 8	
		2021年	6 7 7	9 5	
		2022年	7 0 7	8 7	
		2023年	7 1 9	9 3	
		2024年	6 9 5	9 6	
	5ヵ年平均		7 0 0	9 0	
	2025年見通し		7 0 0	9 5	
概要	愛知産、岐阜産、三重産、輸入を中心に入荷。国産は夏の暑さのダメージも緩和されて、徐々に上位等級の出荷も増える。出荷量としては例年並となる予想。				
枝も	実績	2020年	1, 2 5 9	5 7	
		2021年	1, 4 3 2	6 2	
		2022年	1, 2 3 0	6 0	
		2023年	1, 1 5 7	6 2	
		2024年	1, 2 7 9	6 5	
	5ヵ年平均		1, 2 7 1	6 1	
	2025年見通し		1, 2 5 0	6 5	
概要	クリスマス向けの引き合いも始まる。今年はクジャクヒバの摘みが少なめ、ヒムロ杉は例年通り、ブルーアイスの引き合いは弱い。紅葉物も終わりに近づき、柳類や塗物などが中心になる。紅ヅルなどは年々価格が上がっており、使用頻度の減少が心配される。				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ドラセナ類	実績	2020年	16,748	941	
		2021年	14,522	1,130	
		2022年	12,209	1,300	
		2023年	11,307	1,197	
		2024年	10,973	1,083	
		5ヵ年平均	13,157	1,103	
	2025年見通し	10,900	1,000		
概要	入荷量は前年並で例年より減少か。海外からの輸入原木の仕入れ減に伴い、生産量が減少。出荷は、ユッカ・マッサンの定番の出荷がメインになると思われる。サイズは4号～8号が中心で、大きいサイズは減少の見込み。 前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（70.3%）、2位鹿児島（12.3%）、3位福岡（5.0%）であった。				
シヤコバサボテン	実績	2020年	32,266	539	
		2021年	24,868	583	
		2022年	24,947	563	
		2023年	22,694	469	
		2024年	22,025	467	
		5ヵ年平均	25,171	531	
	2025年見通し	20,000	500		
概要	入荷量は前年よりかなり減少か。出荷は5～6号中心の入荷見込みだが、4号以下は特に入荷量が減少すると思われる。入荷量の減少と単価帯が高いものの割合が増えるため平均単価は上昇する見込み。暑さの影響等により翌年以降の親株にも影響が出ており、現時点で減少の見込み。 前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位埼玉（65.8%）、2位愛知（34.2%）であった。				
シクラメン	実績	2020年	791,136	302	
		2021年	794,945	309	
		2022年	672,730	322	
		2023年	670,882	308	
		2024年	576,499	323	
		5ヵ年平均	701,238	312	
	2025年見通し	560,000	321		
概要	入荷量は前年よりわずかに減少か。特に暑さの影響でガーデンシクラメン以外は上旬の入荷が少なくなると思われる。4号以上の出荷は中旬以降が中心で個人需要の荷動きとなりそう。贈答品の出番は下旬以降となるが年々需要も減少傾向で苦戦は必至の状況となる見込み。 前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（27.8%）、2位群馬（20.1%）、3位岐阜（10.7%）であった。				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
シンビジュウム	実績	2020年	40,986	2,268	
		2021年	50,173	1,917	
		2022年	35,955	2,127	
		2023年	37,876	2,101	
		2024年	27,136	2,018	
	5ヵ年平均		42,807	2,023	
	2025年見通し		22,000	2,000	
概要	入荷量は前年よりかなり減少か。開花の遅れと生産数量減少が要因。11月20日頃から出荷が増える見込み。アーチ仕立てと立のスタンダード仕立ての割合は前年並の予想。11月下旬から12月中旬の需要期には出荷活況となる見込み。 前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（55.2%）、2位高知（9.3%）、3位徳島（8.4%）であった。				
カランコエ	実績	2020年	19,132	265	
		2021年	21,561	250	
		2022年	15,014	249	
		2023年	14,615	256	
		2024年	10,092	292	
	5ヵ年平均		16,864	255	
	2025年見通し		10,000	290	
概要	入荷量は各サイズで前年並か。入荷ペースは5号でやや遅れの見込み。4号以下の入荷は暑さの影響で遅れの分が加わり微増となる見込み。冬場アイテムへの切り替えの時期ということもあり相場の乱れが発生しやすい状況となる見込み。 前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位埼玉（33.5%）、2位岐阜（31.2%）、3位茨城（11.9%）であった。				
パンジー	実績	2020年	900,558	54	
		2021年	972,835	59	
		2022年	786,696	63	
		2023年	755,883	74	
		2024年	582,767	87	
	5ヵ年平均		843,194	62	
	2025年見通し		580,000	86	
概要	入荷量は前年並か。近年の夏以降の暑さで販売開始の遅れから仕込みも遅らせている傾向のため、10月下旬から11月下旬までに出荷が集中する見込み。11月中旬以降は開花待ちや需要に対しての供給不足になる可能性があり、また生産者も限られてきている状況と思われる。 前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（25.1%）、2位奈良（14.9%）、3位高知（13.1%）であった。				